



「小さな勇気」伝えたいこと

27号で「小さな勇気」の歌詞をお伝えしました。

「小さな勇気」という曲は、東日本大震災の後、音楽の教員である梅野知子さんという方が作った曲です。震災後、子どもたちの口から「人のためになるような仕事がしたい」「誰かを助けるくらい強くなりたい」ということを耳にするようになり、そのような子どもたちの思いを後押ししたいという気持ちから生まれた曲と聞いていました。なるほど、だから心動かされるんだなあと感じていたところ、少し違う情報を見つけました。

この歌を合唱する中学生に向けて、作者の梅野知さんが送ったメッセージです。

大淀中学校3年生のみなさんへ

今回は「小さな勇気」を学年合唱で歌ってくださるということをお聞きしました。練習を通して少しでも気に入ってもらえたら嬉しいです。私なりに皆さんの力になればと思います、今日はこの曲を作った時のことをお伝えしようと思います。

あの日、そう、東日本大震災が起きた3月11日。私は都内の学校に勤めていました。皆さんもご存知とは思いますが、交通機関はすべて止まり、大勢の人々が帰宅困難者となりました。私も家に帰ることができず、学校で一夜を明かしました。翌朝、少しずつ電車が動き始めたのを知り、意を決して学校を出て駅に向かいました。そこで見た光景を私は一生忘れることはないと思います。

運行を再開したといっても、電車はいつ来るかわからない状態。駅は、不安な一夜をそれぞれどこかで過ごし、自宅に帰ろうとする人たちであふれかえっていました。おそらく、数百人もの人がいたでしょう。けれども、誰一人として、いらだって文句をいったり、押し合ってもめたりする人がいないのです。お互いまったく知らない者どうしなのに、誰もが疲れ果てているのに、声をかけ合い、お互いをいたわり合って、駅員の放送に耳を傾け、整然と列を作り、電車の到着を待っているのです。

私も列の中に立ちながら、一人考えていました。なぜだろう？こんなに世の中が大混乱しているのに、なぜみんなこんなに自分を制してられるんだろう？この状況って、もしかしたらすごいことなんじゃないか。海外で災害が起こると、暴動が起こったりパニックになっていたりする様子をよくニュースで目にするけれども、少なくともこの光景はそれとはまったく違う。私たちはなぜそうならないでられるんだろう？

ひたすら電車を待ち続けた間に、私なりに出した結論。それがこの「小さな勇気」の歌詞です。私もこんな体験をしなければ気づかなかったかもしれません。なんだかんだと不平不満を口にしながらも命の危険にさらされるわけでもなく、今日と同じ明日が当たり前のようになると思って生活していました。でも、そういう平和な毎日が初めからあったわけじゃない。私たちの前の時代を生き残った人々のたくさんの犠牲と努力の上に成り立っているのであり、それを守り続けてきたからこそ今があるんだと、あの日、気づかされたのです。そして、今まで人生の先輩たちが教えてきてくれたことは、それを守っていくために必要なことだったんだということも……。

学校生活でもそうだと思いますか？ 学校のルールやクラスの約束なんてくだらないと思っても、みんなが守っているなら安心して生活できます。でも、誰かが「イヤだ」とか「バカバカしい」といって投げ出したら、簡単に崩れていきます。みんなと同じように少しずつの我慢とやさしさをもっていれば、笑顔でいられる空間を作っていけるのではないのでしょうか。それが「共に生きる」ということだと思うのです。

これからの社会を作っていくのは、皆さんです。人任せにして愚痴をこぼすのではなく、未来の一員として、小さな勇気を胸に、進んでいってくれたらと思います。

だからこそ、歌うときには、歌詞をよくかみしめて歌ってもらえると嬉しいです。特に、「わけ合い～つなぎ合い～感じて動く」「届けて～受け止めて～思いを寄せ合う」という心のバトンタッチを、歌の上でも大切に表現してほしいと思います。

そして、人に感謝する気持ちを忘れずにいてほしいのです。皆さんが、それぞれ誰かのことを思い浮かべながら、感謝の気持ちを届けるつもりで最後の部分を歌ってみてください。聴いている人たちに、思いはきっと伝わるはずですよ。

(大淀中学校ホームページより)

いかがでしょうか。14年前の今日、東日本大震災が起きました。テレビの画面に広がる光景に言葉を失いました。そして、大きな声を出せなかったり、近づけなかったりしたコロナも経験しました。当たり前と思っていることは、あのとき決して当たり前ではないんだと気づいたけれど、いつも通りの平凡な毎日の中で、私たち大人も含めて、大切なことを忘れてしまっていないかなと、あらためて気づかされたように感じます。

さて、学校では、卒業を間近に控えた6年生が卒業式練習をしています。一人一人が伝えたい相手への想いを込めて、一言一言をかみしめて、悔いなく合唱したり、呼びかけたりしてほしいと願っています。そして、親子揃って、6年間の成長を感じる時間となってほしいと願っています。



あと1週間となりました。体調を崩さないようにして、残り少ない日々を、少しの我慢と少しのやさしさをもって、より有意義に過ごしてほしいです。1～5年生のみなさんにとっても、今の学年の締めくくりとなります。友だちとの時間、先生との時間を笑顔で気持ちよく過ごしてほしいです。みんなならできる、先生はそう信じています。

一年の締めくくりの大切な時に、「ありがとう」「楽しかったよ」「がんばったね」という感謝の気持ちを行動で表せたら素晴らしいと思います。そして、高学年や私たち大人は、今の自分たちの生活は、決して自分だけで作ったのではなく、人生の先輩たちのおかげであり、大切に守り続けてくれたからあるという感謝する、謙虚な気持ちを持ち続けたいですね。



児童会による「トイレ掃除 がんばりませんか？」という呼びかけが始まりました。執行委員自作のトイレ掃除呼びかけ動画や美化委員会が作成した「トイレ掃除スライド」で、全校に呼びかけています。自分たちで、自分たちの学校をきれいにする。素敵な行動です。

アルミ缶回収の収益金で、トイレの消臭剤を購入することにしました。過ごしやすい学校に、一人一人のちょっとした行動でしていけたらいいですね。応援しています。

「何事にもチャレンジし自分らしく学び続ける子」「自分も相手も大切にして正しく行動できる子」